

北欧の旅から(3)

—ランドレース種豚を訪ねて—

県畜産課 多田昌男

9、後代検定について

10月23日スウェーデン農家連合会で、伊藤忠商事株式会社東京支社食品部畜産課の佐野豊之介氏と合流しました。氏はランドレース購買をかねて勉強中のため、約2週間にわたり行動を共にし、その間通訳も勤めて頂き大助かりでした。紙上を借りて御礼申し上げます。

豚の後代検定の元締である農林省の担当官を訪ね、いろいろと後代検定方法を聞き、又枝肉検定所を訪ね枝肉検定の方法を実地に学びました。

スウェーデンの豚のうち後代検定を受ける農家はランドレース200戸、大ヨークシャー50戸ありますが、仔豚の後代検定が終ったもののみの父母豚が種畜として登録されます。このほか商業用豚、つまりと殺用豚の飼育が行なわれていますが、どちらもスウェーデンの豚全部に対して健康管理(衛生管理)、飼料管理、産仔記録が行なわれ、繁殖用豚に対しては後代検定が行なわれています。

豚の後代検定とは何かと申しますと、その豚の外貌のみで良否を決定することはなかなかむづかしいものです。ですから外貌、血統のほかに、その豚の仔豚の発育と枝肉の状態を調査して、その両親を判断します。つまり種豚の良い悪いを判別するには、その子孫のと体を検査してみれば判断できます。又沢山の種豚の優劣を判別するためには、これらの子孫を同じ飼料と同じ環境で飼育して、そのと体を検査してみますと、どの種豚の子孫が優れていたかがわかり、従って種豚の優劣が判別できます。このようにして仔豚の成績から両親の成績を判断する方法を後代検定といいますが、この検定成績は、仔豚の枝肉検定を行なってできた数字であり、両親の能力を判断する基礎となります。

後代検定は、1907年 はじめてデンマークに後代検定所が設立されて開始されました。



後代検定所豚舎の内部

次で1920年代にスウェーデン、フィンランド、ドイツ、オランダに相次いで設立され、1933年にはノールウエーにもできました。

このほか現在後代検定所があるのは、すべて戦後に設立されたもので、イギリスでは1957年に検定が開始されています。次に世界各国の後代検定の規模を示しますと「第2表」のとおりです。

このうちデンマーク式の後代検定方式が殆んどで、フィンランドのみが独自の方法を採用しているらしく、ポルトガルは分りません。又検定所の建物規格

(第2表)

世界各国の後代検定規模

国名	検定所数		豚房数			同時試験頭数	標準温度および湿度
	既設	建築中	個別	3頭飼	4頭飼		
オーストリア	4	—	424	—	20	504	12~15°C 60~70%
ベルギー	4	1	96	—	68	368	±12°C ±70%
デンマーク	3	—	1,200	—	—	1,200	幼豚 16~18°C 65~80% 中豚 14~16°C 65~80%
デンマーク(非公式群)	16	—	—	—	572	2,288	
フィンランド	1	—	—	—	40	160	不明
西ドイツ	14	—	392	—	525	2,492	12°C
フランス	1	—	248	—	—	248	15°C 80%
オランダ	10	—	—	—	396	1,584	13~15°C
ノールウェイ	1	—	200	—	—	400	15°C 70~80%
ポルトガル	2	1	—	80	—	240	17~18°C 70~80%
スウェーデン	5	1	—	—	350	1,400	15°C
イギリス	4	5	—	—	192	768	不明
ユーゴ	2	1	—	—	88	352	—
計	67	9	2,560	80	2,251	12,004	—

註. Pig Breeding, Recording and Progeny Testing in Europe.

1958年国連FAO編集による。

統一のあるのはデンマークのみです。

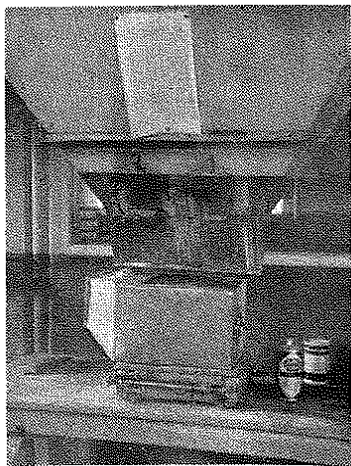
10、産仔頭数の予測

スウェーデンの生産仔豚頭数の予測は次の方法で行なわれています。まず繁殖用と商業用（と殺用）に分けられ、これらの雌豚に種付が行なわれた場合、その種付年月日等、必要事項を記入した書類を地方農林省分局へ送り、これが更に統計局に送られます。統計局では毎月の豚種付頭数が分ることになり、何時頃仔豚がどの程度生産されるかを予測することができます。

1頭の雌豚から1回に生産される仔豚は7.8頭としていますが、これは実際の数とあまり異らず、と殺頭数との誤差は僅か1%に過ぎないといわれます。生産された仔豚のうち後代検定を受けるものは、体重18kg位になった時に後代検定所へ送られますが、この頃の仔豚の値段は80—90クローネ（1クローネ70円）で、このうち70%を農家に取り、残り30%が後代検定所の手数料として取られています。又と殺場へ行く場合の手数料も必要となっています。

11、後代検定成績を活用する農家

スウェーデンの首都ストックホルムから急行で6時間、この国の南西岸にある市、マルメを中心にした付近一帯が豚の主産地となっています。この付近一帯に散在するランドレース繁殖農家25戸余りの設備と豚を見せてもらいましたが、農家に入ってまず最初に主人が見せてくれるものは、実物の豚よりもその農家の後代検定記録簿でした。これは無理もないことで、繁殖養豚場として国の指定を受けることが非常に大きな名誉であり、しかも一般農家ではなかなか資格が得られないからです。その農家の主人



検定飼料取出口

が持っている後代検定成績記録簿は、飼育中の豚の格付の基礎であり、販売上における格付の目安となります。スウェーデン人は豚の外貌よりも、むしろこの成績を重要視して十分活用しています。

12、後代検定所

国営の後代検定所は現在スウェーデンには6カ所ありますが、このうち4カ所が大きく、2カ所が小さいものです。私が見た後代検定所は、このうちの大きい設備の検定所でしたが、マルメ市から乗用車で30分余りの所にありました。

検定豚舎は3棟で、1棟に豚房が32室あって、合計96室ありました。1室4頭けい養ですから1検定所で同時に96組、384頭の検定を行なうことができます。4頭入れの豚房は前巾1.5m、奥行3mに排糞場が1mあります。その概要は「図1」のとおりです。

6カ所の検定所から毎年体重90kg以上になって、と殺場へ送られる豚は、1,000グループ、4,000頭におよんでいます。後代検定所へ農家から送られてくる1組4頭の仔豚は、1腹のうち体重の近いもの10頭を選び、この平均体重に近いものから選ばれます。

検定豚に対する飼料の給与量は週令により異なりますが、給与内容の1例をみますと、例えば平均体重20kg位の仔豚4頭に対して、1日当り脱脂乳4—6kg、配合飼料6.5kg程度与えています。脱脂乳に配合飼料を1日1回混合し、これを朝と14時頃の2回に分け4頭分一緒に給与しています。青草類は給与飼料の含有成分相違をさけるため給与せず、ビタミン類を補給する意味でアデサン(Adesan)を与えています。アデサンの内容は次のとおりです。

ビタミンA	25,000IE/ml
ビタミンD ₂	2,500 "
ビタミンD ₃	2,500 "

脱脂乳は毎日ミルク工場から持ち込んでいますが、分離技術が優れているため脂肪は殆んど含まれていないそうです。この検定所が購入する飼料の価格は1kg当り、脱脂乳が検定所到着値9.8円(14オーレ)、配合飼料が工場渡値33.6円(48オーレ)でした。

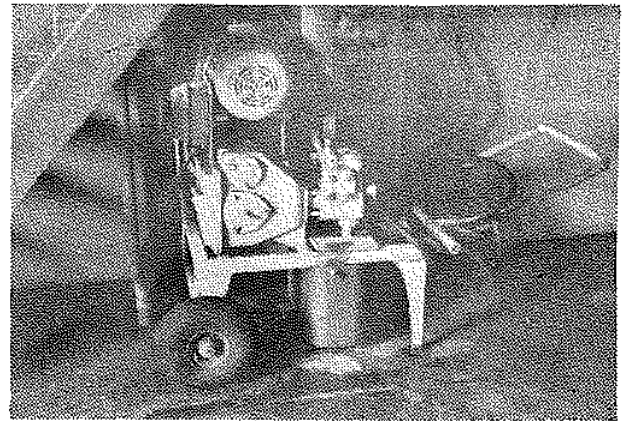
脱脂乳は冬でも温めずに給与していましたが、これは検定豚舎内を冬期でもスチームを通して、常時室温摂氏18度位に係っており、朝までに摂氏15度までしか下らないからです。つまり検定豚舎内に脱脂乳貯蔵タンクを置いているからです。又水の給与は次の方式で行なっていました。

$$\text{脱脂乳} + \text{水} = \text{配合飼料} \times 2.5$$

岡山畜産便り1962.05

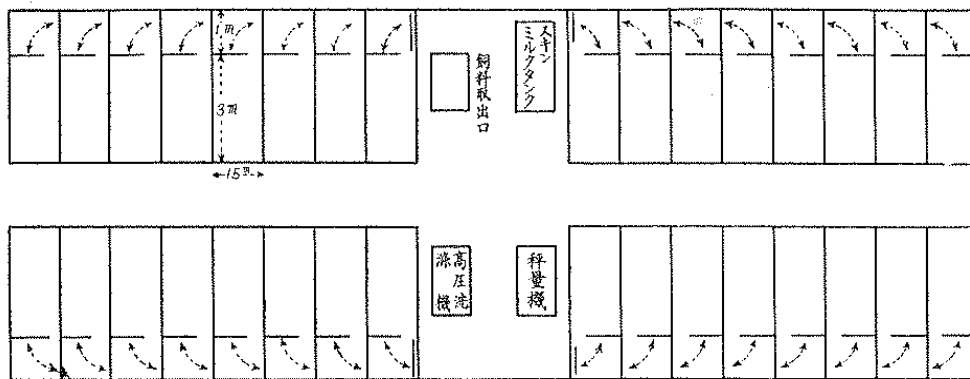
例えば、脱脂乳 6 kg、配合飼料 4 kg を与えている場合には水を 4 kg 与えればよいことになります。(水 = 配合飼料 × 2.5 - 脱脂乳 = 4 kg × 2.5 - 6 kg = 4 kg) なお、配合飼料は「第 3 表」のような 1 号および 2 号を与えていました。

体重は毎週火曜日の午前 9—10 時頃に測定し、豚舎の清掃は毎日朝 1 回行なっていました。洗舎、洗豚用として、30—35 P キロメートル圧力の高水圧水洗機を用いていました。この場合ブラシを用いるよりもはるかに効果があるそうです。



高 圧 洗 滌 機

(図 1) スウェーデン後代検定豚舎 (32 房)



註 飼料は二階の飼料室から階下の取出口に 1 号、2 号配合が別々に出るようになっている。

(第 4 表) 後代検定用配合飼料給与量表

生 体 重	一 日 一 頭 当 り						一飼料 単 位 当 り 可 消 化 純 蛋 白	乾物量 中 に お け る 粗 せ ん い	Ca/P
	濃厚 飼料	脱脂乳	Fe ス カ ン ジ ナ ビ ン 酸 単 位	可消化 純蛋白	Ca	P			
Kg	Kg	Kg	g	g	g	g	g	%	
15	0.64	1.0	0.75	92	7.2	4.4	123	3.8	1.6
20	0.76	1.5	0.93	119	9.0	5.6	128	3.7	1.6
25	1.00	1.5	0.16	142	11.3	6.9	122	3.8	1.6
30	1.24	1.5	1.40	166	13.6	8.2	119	4.0	1.7
35	1.53	1.5	1.68	194	16.4	9.8	115	4.1	1.7
40	1.85	1.5	1.99	226	19.4	11.6	114	4.1	1.7
45	2.04	1.5	2.18	245	21.3	12.7	112	4.2	1.7
50	2.21	1.5	2.35	261	22.9	13.6	111	4.2	1.7
55	2.43	1.5	2.53	241	14.9	12.7	95	4.7	1.2
60	2.61	1.5	2.70	256	15.9	13.5	95	4.8	1.2
65	2.77	1.5	2.86	269	16.8	14.3	94	4.8	1.2
70	2.89	1.5	2.97	278	17.4	14.9	94	4.8	1.2
75	3.06	1.0	3.08	277	17.8	15.1	90	4.9	1.2
80	3.16	1.0	3.17	285	18.3	15.6	90	4.9	1.2
85	3.24	1.0	3.25	292	18.8	16.0	90	4.9	1.2
90	3.36	1.0	3.37	302	19.4	16.5	90	4.9	1.2

註 1 号配合飼料は体重 15Kg から 50Kg まで、2 号は 51Kg から 90Kg まで給与している。

(第 3 表) 配合飼料 1 号、2 号の内容

飼 料 名	1 号 (15~50 Kg 豚)	2 号 (51~90 Kg 豚)
大 麦	73.0%	70.0%
えん 麦 (1 等)	10.0	20.0
ふ す ま	5.0	5.0
飼 料 酵 母	3.0	0.5
魚 粉	3.0	1.0
大 豆 粕	1.5	0.5
ヤ シ 粕	1.5	0.5
ルーサンミール	1.0	1.0
ミネラル混合物	2.0	1.5
計	100.0	100.0
ミネラル混合物内容	1 号	2 号
石 灰 粉	75.0%	55.0%
第 2 リンサン カルシウム	25.0	25.0
食 塩	—	20.0
計	100.0	100.0